

加古川などの治水施設巡る

## 大きなダム歩いて体感

### ツアーに33人、内部を見学

加古川市と小野市の観光協会がこのほど、治水施設を巡るバスツアーを両市内と加東市で開いた。33人が

参加し、加東市黒谷の鴨川ダムでは、コンクリートの分厚いダム内部を歩き、巨大な水がめの規模を体感した。

北播磨県民局加古川流域土地改良事務所（三木市）が、鴨川ダムを主な水源と

する全長108キロの水路網「東条川疏水」などを知ってもらおうと、両観光協会に提案して実現した。

鴨川ダムは1951年、戦後初のコンクリートダムとして完成。長年干ばつに悩まされてきた加東、小野、三木市を救い、今では農地約3千鈔を潤している。

参加者はダム本体（幅約



鴨川ダム内部の階段を下りる  
ツアー参加者＝加東市黒谷

97釐、高さ約42メートル）の底にある通路へ入った。階段の段差は高さが約30釐と通常の倍ほど。手すりにつかまりながら、地震計などが設置された階段をゆっくり進んだ。高砂市菅根町の主婦金尾時江さん（76）は「急勾配で上りが特にきつかった。ダムの大きさが分かった」と話していた。

参加者はこのほか、加古川大堰（加古川市八幡町中西条）や水路橋「平木橋」（同市野口町水足）なども見学した。

（笠原次郎）